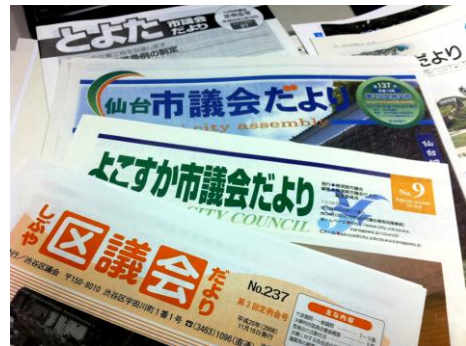


市議会の様子や議員の質問などをお知らせする

「議会広報」が9月議会より発行されます

議会広報委員会が14日に開かれ、熊本市議会の広報紙の発行に向け、掲載内容などの協議が行われました。「議会広報紙」は、議員がどのような一般質問を行ったのか、どのような予算や条例が提案され結果はどうなったのか、市民からの請願内容など、議会と市民をつなぐ大切な役割を果たすものです。

日本共産党市議団は、これまでも開かれた議会に向け、議会広報の発行を求めてきました。



他都市で発行されている議会広報

議会改革を促進するためにも、市民のみなさんから読まれ、わかりやすい議会広報にむけがんばります。

みなさんのご意見をお寄せください。

【既に掲載が決まっている項目】

- ・ 定例会の概要
- ・ 可決された意見書・決議
- ・ 議案や予算・決算の概要
- ・ 一般質問と答弁の要旨（会派、名前、顔写真）など

【今後の検討項目】

- ・ 議決結果（会派ごと）
- ・ 常任委員会の審議概要や結果
- ・ 題字（『市議会だより』とするのか、市民から公募とするのか今後検討）

今後の検討項目である「議決結果」については、「議案や請願についてどのような態度をとったのか、会派ごとの賛否を掲載すべき」との意見を述べました。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

ますだ牧子 上野みえこ なすまどか

熊本市手取本町1-1 議会棟3階

NO. 761

2011年7月24日

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

ホーム：http://www.jcp-kumamoto.com/

貨物の減少、地盤の強度不足、さらなる600億円の投資…

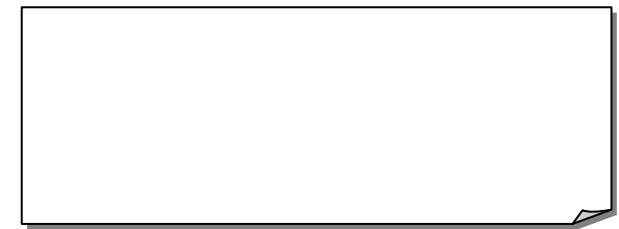
熊本港の今後のあり方を考える集いにご参加ください

今、熊本港のあり方が問われています。6月市議会には、熊本港で取りあつかうコンテナへの補助金が提案されました。日本共産党は、熊本港での取扱貨物も減少しており、補助金が市内経済の発展にはつながりにくいと、予算に反対しました。

また県議会においても、松岡とおる県議が「熊本港の地盤は脆弱であり、大規模地震があれば、岸壁のゆがみなど強度不足による変位が生じる」など

を指摘した国の報告書を示し、今後の600億円の投資が計画されている熊本港の抜本的な見直しを求めました。

熊本港の今後のあり方はどうあるべきか？「熊本港を考える集い」にぜひご参加ください。



(控室から)

ふるさと天草の現実と希望

益田牧子

蘇陽町から歩いて熊本市に、仕事を探しに来た三七歳の青年が、天草市の知人の紹介で、天草で、農業により、自立の道を歩むことになりました。高齢化により、耕すことができなくなった農地を活用し、青年達が、指導者の下で、農業に従事しています。将来的には、「NPO法人を作り、若者の雇用の場を作り、都市と農村を食で結びたい」とのことです。それだけでなく、太陽光発電、風力、バイオマスなど豊かな自然エネルギーでの町おこしの計画もあります。

天草の両親も、自宅周辺の畑に野菜を作り、近所の直売所に出すのを生きがいとしていました。しかし、父が高齢のため、車の運転が無理となり、現在は、やっと、自給野菜の栽培だけです。近いうちに、休耕畑となるのは、目に見えています。

ふるさととは、合併で「町」から「天草市」となったものの、少子化により、ついに、小学校まで合併。近く、廃校になり、益々過疎化が進み、高齢者だけの世帯が増えるのではないかと心配しています。天草には、「高齢化」という厳しい現実があります。希望もあります。青年たちによる農業が軌道に乗ることを期待し、応援しています。

侵略戦争肯定の教科書、子どもたちに手渡せません

事実をゆがめ、国策に従うことを求める「自由社・育鵬社」の教科書

「つくる会」系の自由社・育鵬社の歴史教科書は、他国を侵略・植民地にし、アジア諸国民に甚大な被害を与えた過去の侵略戦争を「自存自衛・アジア開放の戦争」と美化、それに誇りを持つという内容です。しかし、日本が過去の誤った行為に無反省では、国際社会の一員として、特に中国や朝鮮を初めとするアジア諸国の人々との平和的な友好関係を築いていくことはできません。

公民教科書でも、天皇主権・国民の権利が制限されていた戦前の大日本帝国憲法を賛美する内容は、国民主権を謳った現行憲法の理念に反します。

事実をゆがめる自由社・育鵬社の教科書には、他社と比べ、多い検定意見が出され、一定の修正

が加えられたとはいえ、それが合格したことに疑問という研究者の声もありました。

原発問題でも、

事実をゆがめる「安全神話」の肯定！

今回採択の対象となっている教科書で、「原子力エネルギー」「原子力発電」に関する記述がある中学校教科書は、社会科の地理と公民、理科の第一分野、技術・家庭の技術分野です。

大方の教科書は、「原子力発電」について「利便性」と「問題点」の両論併記ですが、自由社・育鵬社の公民では他社と大きく異なり、原発を肯定、今や破綻した「安全神話」の立場での記述です。

現場教師が権利と責任を負う採択が国際的な常識

1966年、日本も賛成し採択されたILO・ユネスコの「職員の地位に関する勧告」では、「教員は、教材の選択及び使用、教科書の選択ならびに教育方法の適用にあたって、不可欠の役割を与えられているものとする」と明記されており、現場教師が教科書採択に権利と責任を負うというのが国際的な常識です。

近現代史の扱いには、国際理解・協調の見地が必要

自国の侵略の過去を反省することは、国際社会に対する責任であり、国際社会の一員として他国との友好関係を築くことに不可欠です。

現場の声を尊重し、憲法の理念に則った採択を！

- 1、記載される内容が、学問的な見地に裏付けられた事実を正確に教えるものであること
- 2、国の最高法規・憲法の立場に立ったものであること
- 3、教育は、事実に基づき、民主的に意見を交換し、何が真実で、何が大切であるかを考え、よりよい未来をめざす子どもたちを育成するためのものであること

などを基本とし、中学生が夢や希望を持って未来を創造することができるような教科書、教育に一番の責任を負う現場教師の声を尊重するとともに、最高法規である憲法の理念に則った採択を行うことを、日本共産党市議団として求めました。



松岡徹県議と共に実現！

上熊本駅前歩道の段差が解消へ

4月の選挙前、松岡県議と益田牧子市議がハンドマイク宣伝をしていると、自転車利用者の方から、「歩道の段差を改善して欲しい」との要望がありました。

選挙後、さっそく、北署に要望を行い、県土木事務所との連携プレーで、段差の一部が解消されることになりました。



「子飼交差点」が改善されます

子飼商店街の子飼橋側入口・スクランブル交差点で、停止線の位置変更によって、「子飼本町」の方から右折でも県道に出やすくなるよう、松岡県議と県警に要望していましたが、このほど改善の方向が示されました。

